

新学部の活用を含めた これからの取組構想

第 2 回静岡大学将来構想推進会議

構想を進めるにあたってのポイント①

新学部ではどのような人材を育成するかという理念が重要

静岡大学の考え

令和5年4月の設置を予定する新学部「グローバル共創科学部」では、地球規模の課題から地域社会の課題に至るまで、社会的課題が多様化・複雑化する現代社会の状況を踏まえ、多様な人々と協働し、人文・社会科学から自然科学に至る幅広い知をつなげることを通じて、複眼的な視点から社会的課題を的確に捉え「総合知」を創造し、未来社会を活力と魅力溢れるものとしてデザイン・構想できる共創型人材を育成することを目指す。

具体的な取組

- ✓ 未来課題群に総合的に対応できる素養を育むため、1学科に3コースを設置
 - ・ 国際地域創造学コース
 - ・ 生命圏循環共生学コース
 - ・ 総合人間科学コース
- ✓ 「総合知」獲得に繋げるため以下のような科目群を配置
 - ・ 共創科学コア科目 → 上掲3コースを横断的に学び、地球規模の多様な視点と生物単位のミクロな視点を往復することで、俯瞰的、複眼的視点からものごとを捉える力を育成
 - ・ 外国語科目 → 単なる語学ではなく、世界を相手に交渉できるレベルの語学力を育成
 - ・ 数理・データサイエンス科目 → 課題解決のための分析力、データ解析力を育成
 - ・ 地域・グローバル演習科目 → 地域や海外における実体験を通じ、課題発見、探求、解決する力を育成
 - ・・・など

構想を進めるにあたってのポイント②

既存学部や教員を含めて改革意識を涵養し、
大学全体での相乗的な改革を実施することが重要



静岡大学の考え

グローバル共創科学部の設置後は、これまでの静岡大学が持ち得なかった当該学部の文理融合教育・研究の知見や取組を既存学部にも波及させ、互いに刺激して高め合う仕組みの構築を目指す。

具体的な取組

- ✓ 先進的な文理融合教育の推進により、専門教育・教養教育のいずれにおいても、**教育内容・教育方法に関する各学部間での連携の幅を拡げ、その連携を先導する** → **大学全体の教育改革に繋げる**

構想を進めるにあたってのポイント③

地域と連携したフィールドワークの取組強化が必要



静岡大学の考え

これまでの地域創造学環での取組を引き継ぎながら、新たに「国際」や「理系」の知見を取り入れるとともに、産業界との連携可能性の拡大を目指し、質・量共に一層充実したフィールドワークを展開する。

具体的な取組

- ✓ 学内の他学部との連携に基づき、**相互の知見を活かした新たなフィールドワーク**を開拓 → **大学全体の教育改革に繋げる**
- ✓ より効果的なフィールドワークの実施に向け、既存の仕組みを発展させた**産業界との協働の場**を構築 → **プラットフォーム構築に繋げる**

構想を進めるにあたってのポイント④

IT人材の育成に向けた大学教育の向上が必要
(大学教員自身の教育能力の向上も含む)

静岡大学の考え

全国の国立大学における「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」事業において、特定分野校として取り組んできた実績を踏まえ、新学部で更なる充実を図るとともに、全学の共通教育に展開する。

具体的な取組

- ✓ 新学部において、現代社会で必須なAI・プログラミング・データエンジニアリングの分野について、PBL型(課題解決型)実習を行い、**情報処理技術のみならず、ドローンや実験工作機械の制御といった実務能力も備えた人材**を育成
→ **大学全体の教育改革に繋げる**
- ✓ 産業界が求めるIT人材を輩出するための教育内容の検討に向けた**産官学の連携の場**の構築と、**学生・教員・産業界が共に学べる場**の実現
→ **プラットフォーム構築に繋げる**

構想を進めるにあたってのポイント⑤

地域の国立大学としての必要な活動

(小・中・高等学校との連携、留学生に対する日本語教育等)



静岡大学の考え

地域志向の静岡大学の立場から、この地域にある大学としての強みを活かした教育研究を展開する。その中で地域の課題解決に繋げるため、入学生のみならず、初等・中等教育機関との連携を深めるとともに、留学生に対する日本語や日本文化教育を充実することで、多文化共生社会の実現に寄与する。

具体的な取組

- ✓ 静岡大学のこれまでの取組実績を活かしながら、**地域の初等・中等教育機関と連携したフィールドワーク型の授業**や、留学生をはじめとした**地域の外国人が地域社会に溶け込んで暮らせるための日本語や日本文化に関する授業**を、自治体や産業界と共同で開発
→ **プラットフォーム構築に繋げる**